

偽膜性大腸炎

英語名 : Pseudomembranous colitis

同義語 : *Clostridioides (Clostridium) difficile* colitis、*Clostridioides (Clostridium) difficile* 大腸炎、*Clostridioides (Clostridium) difficile* infection、*C. difficile* 感染症



A . 患者の皆様へ

ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

抗菌薬の服用により、ある種の菌が異常に増えて、大腸で感染、炎症がみられる「ぎまくせいだいちょうえん偽膜性大腸炎」が引き起こされる場合があります。

抗菌薬を服用していて、または、飲み終わって数日経った後で、次のような症状がみられた場合には、放置せずに医師・薬剤師に連絡してください。

「頻ぱんあるいは持続性に下痢がおきる」、「粘性のある便」、「お腹が張る」、「腹痛」、「発熱」、「吐き気」など

1. ^{ぎまくせいだいちょうえん}偽膜性大腸炎とは？

健康な人の大腸内には、様々な細菌がバランスを保って生息していて健康維持に役立っていますが、抗菌薬の服用により、正常な腸内細菌のバランスがくずれてある種の菌が異常に増え(菌交代現象)大腸に炎症(感染性大腸炎)を起こすことがあります。

偽膜性大腸炎とは、内視鏡検査で大腸のかべに小さい円形の膜(^{ぎまく}偽膜)が見られる病態で、そのほとんどがクロストリジオイデス(クロストリジウム)・ディフィシル菌(*Clostridioides (Clostridium) difficile*)による感染性大腸炎の1種です。この菌の産生する毒素により、粘膜が傷害されて起こります。この菌の芽胞は胃酸にも強く、口から容易に腸まで到達することが知られており、院内感染のうち最も頻度が高い疾患とも考えられています。主な症状は下痢であり、抗菌薬などの服用1～2週後に「1日2～3回(いつもより回数が多い)のやわらかい便」、「頻ぱんあるいは持続性に水のような下痢がおきる」、「粘性のある便」、「お腹が張る」、「腹痛」、「発熱」、「吐き気」などが多くの症例で認められます。

偽膜性大腸炎が生じた場合、気づかずに放置すると重症化する場合があります。高齢者や腎不全、がん、白血病などの重篤な基礎疾患をもつ方で発症が多いとされていますので、特に注意が必要です。

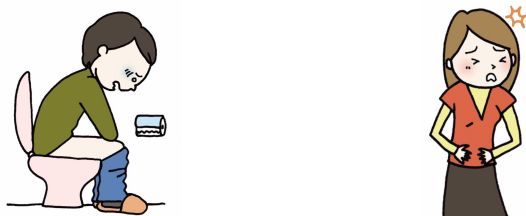
2. 早期発見と早期対応のポイント

抗菌薬を服用中または服用1～2週間後(特に長期の入院中)に「頻ぱんあるいは持続性に下痢がおきる」、「粘性のある便」、「お腹が張る」、「腹痛」、「発熱」、「吐き気」などがみられた場合には、放

置せずに医師、薬剤師に連絡をしてください。重症例では、血液の混じった下痢になることもあります。

腹痛に対して抗菌薬を使用した場合にも発症することがあるので、新たな腹痛や水のような下痢が生じた場合には、すぐに医師に連絡してください。また、抗菌薬を中止した後に発症することもあります。

受診する際には、服用した医薬品の種類、服用からどのくらいたっているのか、便の状態、症状の種類、程度などを医師に知らせてください。



医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医療用医薬品 情報検索」から確認することができます。

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病等の健康被害について、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金などの救済給付が行われる医薬品副作用被害救済制度があります。

(お問い合わせ先)

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

<https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai.html>

電話：0120 - 149 - 931 (フリーダイヤル) [月～金] 9時～17時 (祝日・年末年始を除く)